

前史

コンピュータマッピングの適用業務はひろく、マーケティングフィールドとして見た場合その可能性は無尽蔵と思える程です。1980年代、北米で発達したコンピュータマッピングは汎用、大域的で<グローバルマッピング>という言葉がピッタリですが、日本の都市形態、居住地規模、土地利用状況を鑑みると必ずしも適切な手法とは言えず、狭域できめの細かいマッピング手法が要求され、3D技術等の新しい技術課題が山積されてきました。

このような状況のなかで、弊社では全く新しい視点より<エリアマッピング>に必要な機能を全て独自に開発し、コンパクトなインテグレータとして構成したAMI (Area Mapping Integrator) を新しいマッピングフィールドへの一石として投げ、AMIを用いて地形をキーワードとするマッピング新時代をリードしてきました。

地理情報システムの骨格となるアルゴリズムに関連して弊社では独自の方法論を編み出して特許を取得しております。 [特許第3340816号]

コンピュータマッピングが地理情報システム (GIS) と呼ばれ、もて囃されるようになって、地図に関わるシステムの核心をなすのは「地図データ」しかも「ベクター型の地図データ」であり、これが貧弱である限り、GISは砂上の楼閣のような存在であり続ける他はありません。地図データや地図ソフトは数知れず存在していても、ベクター型のデジタル地形図は驚くほど少なく、容易に入手でき、かつ安価なものとなると、皆無に近い状態でした。

転換点

平成11年(1999年)画期的な出来事として、全国でも初めて、東京都から2500分1ベクター地形図である都市計画基図(所謂白地図)の使用許可が出され、1:2500高精度デジタルマッピング地形図(DM)を基に誰もが容易に構築できるGISツールとして、超GIS「東京地価23」「東京日影図」「東京デジタルミューマップ」を作成・販売いたしました。また、更なる進展が予想される3次元GISの具現化として「東京デジタル3Dマップ」を開発いたしました。

超GIS

[東京地価23](#) [東京日影図](#)
[東京デジタルミューマップ](#)

3次元GIS

[東京デジタル3Dマップ](#)

「東京デジタル3Dマップ」は、地形の断面プロファイルや立体図を表現する<地形3D>、家屋や樹木を3次的に表現する<風景3D>、地点の標高を任意に算出する<地点3D>、集積された計測データを地形図と重ね合わせてコンター面、ベクター流線図、二相立体図を表現する<計測3D>といった3D技術要素から成っています。

発展期

平成14年春、地図データは日本測地系から世界測地系へと大きく転回し、全国の自治体で作成されているデジタルマッピング地形図（DM）も、図郭割りの基本から変更になりました。この中で、平成20年4月から国土地理院のサイトより「基盤地図情報ダウンロードサービス」が開始され、状況は劇的に変化しました。

基盤地図情報は5m標高メッシュ（大都市圏の一部）、10m標高メッシュ（全国整備）といった標高データばかりでなく、1：2500や1：25000地形図等から成り、1:25000地形図は全国整備されています。更に、特筆すべきは白地図つまり都市計画基図と呼称される1：2500デジタルマッピング地形図をベースに作られた基盤地図情報を含んでいる、ということです。

DM自由自在の汎用ツール

[UniMap](#) [DM-Xmap](#) [DM-μGIS](#)

既に弊社では、全国の自治体や河川事務所等が保有するDM（デジタルマッピング）地形図を高度に利用できる汎用ツールUniMap、DM-Xmap、DM-μGISを開発していましたが、なかなか入手しづらい地形データだった「DM標準ファイル」が無償で使えるようになったのは福音とも言える出来事です。

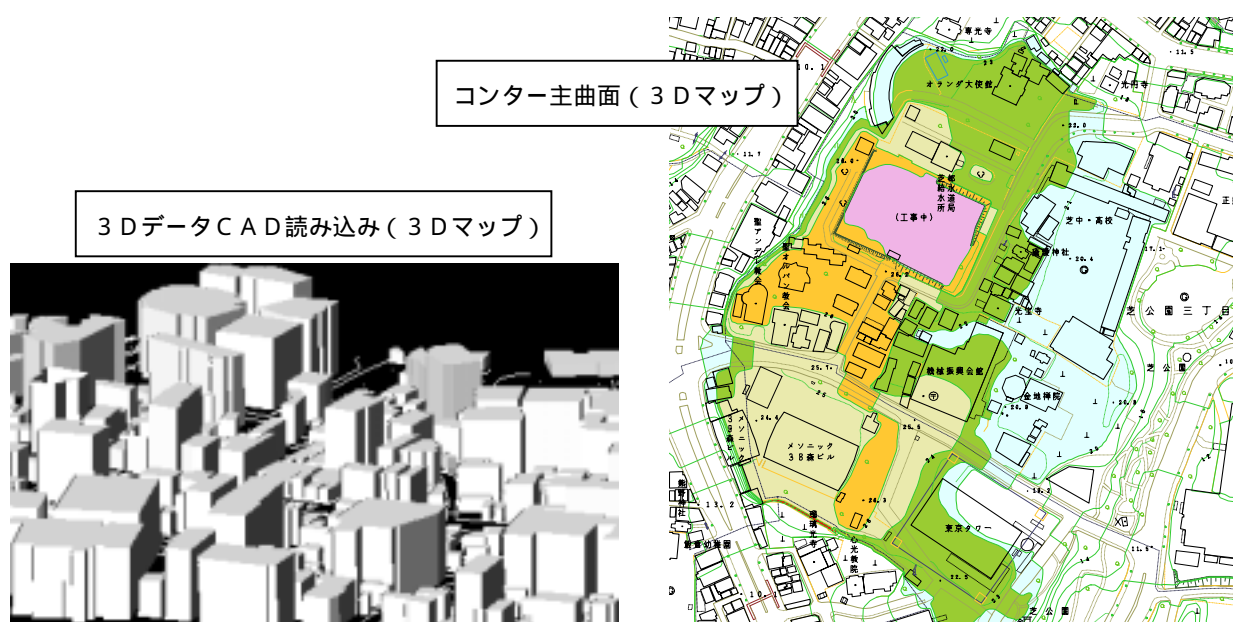
新しい地平へ

東京都のDM地形図データ（2500分1ベクター地形図）の情報公開を機に、全国の自治体での公開が相次ぎ、遂には国土地理院より「基盤地図情報ダウンロードサービス」が開始されるに及んで、地形図データは、大縮尺高精度ベクター地形データ、広域ベクター地形データ、大都市圏の高精度な標高メッシュから全国規模での標高メッシュまでほぼ全ての領域で出揃い、これに対応した地図ソフトが百花繚乱に咲き乱れています。

地図のソフトは用途、目的に応じて多種多様に存在しますが、現実問題として、地図ソフト単独では殆ど意味をなさず、「地図データを使う」立場からは文書作成やイラストレータに簡単に使えるのか、CADやCGにどのように使えるのか、更にはCADやCGでの応用のために、DXF変換そのものが2次元ばかりでなく3D変換ができるのか、が重要でしょう。こういった視点から弊社では、大縮尺高精度ベクター地形データを扱う地図ソフト、広域ベクター地形データを扱う地図ソフト、標高データを扱う地図ソフトと幅広く開発し、大縮尺高精度ベクター地形データにつきましては更に、DM地形図を扱う汎用ソフト、数値地図2500を扱う汎用ソフト、基盤地図情報を基に標高データから地図を3D化して作成された専用ソフト、基盤地図情報で全県単位に特化された3Dの専用ソフト、東京都DM地形図ソフトの5つのジャンルに分けて開発を進めて参りました。

このうち、広域ベクター地形データを扱う地図ソフトの「日本全図J-μMAP」は日本全国の高精度地形データ28GBをUSBに格納した広大なもので、ハードウェアの高速化、大容量化といった進歩なくしては考えられなかったものと言えます。

因みに広域ベクター地形データと言えば、「基盤地図情報縮尺レベル 25000」の別名と言っても言いすぎではない程、基盤地図情報縮尺レベル 25000 は優れた広域ベクター地形データですが、XML形式で格納され、緯度、経度で表現された地形データという性格から、CADやCGのための基礎データとして使用するには、かなりの技術を要します。「日本全図」- μMAP」は、日本全土を対象とした全域の地形図データの平面直角座標と10種の図法による多彩な表示・印刷・データ変換が可能な[日本全域図]と、都道府県をブロックとして平面直角座標で表現され、「分県図」の単位あるいは「同一座標系」の単位で複数の県が連続する、高精度地形図データの閲覧およびデータ変換が可能なプログラム[日本分県図]を統合したものです。



地形図は人類が成し遂げてきた壮大な文化の一翼を担うものであり、地図データは無限の可能性を持っています。私達はこれらの製品を通じて、GISの広範な利用、普遍化の一助になればと願っております。

業務内容

地図ソフト開発・販売業務

大縮尺高精度ベクター地形データを扱う地図ソフト開発・販売

DM地形図を扱う汎用ソフト開発

数値地図2500を扱う汎用ソフト開発

基盤地図情報を基に作成された専用ソフト開発

基盤地図情報で全県単位に特化された専用ソフト開発

東京都DM地形図ソフト開発

広域ベクター地形データを扱う地図ソフト開発・販売

標高データを扱う地図ソフト開発・販売

システム開発業務

科学技術計算プログラムの開発、工学系・通信系システムの開発、Webプログラミング、地図データベースの変換・整備作業等、幅広く対応いたします。

GIS・マッピングシステム

地図データベース整備

マッピング・地図システム

地理情報システム

デジタル化システム

解析系システム

人工衛星解析

飛行体解析

熱流体・原子力解析

電子回路解析

ドリリング解析・制御システム

海洋・構造システム

石油掘削システム

グラフィックスシステム

CAD/CAM

グラフィックス&シミュレーション

AI&データベース

ビジネスグラフィックス

制御システム

マイクロ制御技術

通信系システム

コンサルティング業務

中規模システムのインテグレーションやシステム構築、業務分析からシステム設計、評価解析にわたって対応いたします。

ホームページのデザイン、製作やマニュアル作成も承ります。

工学系解析

調査・研究

ホームページ製作

マニュアル作成

主な地図ソフト

大縮尺高精度ベクター地形データを扱う地図ソフト製品

「大縮尺高精度ベクター地形データ = DM (および基盤地図情報)」という図式が成り立つ程、DM (デジタルマッピング) 地形図は大縮尺ベクター地形データの核心を成しています。DM 地形図は基本的に 500 分 1、2500 分 1、5000 分 1、10000 分 1 から成り、特に 2500 分 1 と 5000 分 1 地形図は国土基本図として整備され、< 地図の基本 > とも言えるものです。全国の自治体の窓口で発売されている「白地図」(「都市計画基図」あるいは「都市計画基本図」)こそが、汎用的な地形図として最も高精度な地形図であることに異論はないでしょう。通常、この地図の基となったベクター地形データを「DM 地形データ」と呼んでいます。このデータの骨格部分を取り出したのが「基盤地図情報」であり、自然地形にあたる部分を取り出したのが「数値地図 2500」と言えます。

DM 地形図を扱う汎用ソフト製品

DMcnvDXF は DM 標準ファイルをファイル毎に DXF 変換します。DM - Xmap と UniMap は DM 標準ファイルを自動的に展開し、表示やデータ変換 (EPS 変換、2D / 3D の DXF 変換) を行います。この 2 つのソフトの関係は「UniMap = DM - Xmap + AmiGIS」という図式が概ね成り立つことにあります。

- ・ DM 標準ツール「DM - Xmap」
- ・ DM 汎用ツール「UniMap」
- ・ DM 自由自在「DM - μGIS」
- ・ DM の DXF 変換「DMcnvDXF」

数値地図 2500 を扱う汎用ソフト製品

数値地図 2500 の全ての形式 (独自形式および XML 形式) に対応した汎用ソフトです。

- ・ 数値地図 2500「AmiGIS」

基盤地図情報を基に作成された専用ソフト製品

基盤地図情報を背景データとして、5m メッシュ標高データを用いて 3D を実現した、高度の地図ソフトです。2次元および3次元処理を含み、地図データ変換も EPS 変換、2D / 3D の DXF 変換ができます。

- ・ 2D / 3D 地形図「さいたま市 3D 地形図」
- ・ 2D / 3D 地形図「京都市街 3D 地形図」
- ・ 2D / 3D 地形図「川崎市 3D 地形図」
- ・ 2D / 3D 地形図「大阪市 3D 地形図」
- ・ 2D / 3D 地形図「横浜市 3D 地形図」
- ・ 2D / 3D 地形図「名古屋市 3D 地形図」
- ・ 2D / 3D 地形図「千葉西部 3D 地形図」
- ・ 2D / 3D 地形図「さいたま東南部 3D 地形図」

基盤地図情報で全県単位に特化された専用ソフト製品

全県単位で、基盤地図情報を背景データとして 10mメッシュ標高データを用いて 3D を実現した高度の地図ソフトです。2次元および3次元処理を含み、地図データ変換もEPS変換、2D / 3D のDXF変換ができます。

- ・ [3D化基盤地図「三重県3D化基盤地図」](#)

東京都DM地形図ソフト製品

東京都のDMの使用許可を得て作成した、地形データを内蔵した地図ソフトです。地形データは1997年から2000にかけて作成されたものです。最新のDM標準ファイルがあれば、図郭毎に更新できる機能があります。

- ・ [超GIS「東京地価23」](#)
- ・ [超GIS「東京日影図」](#)
- ・ [統合型GIS「東京デジタルミューマップ」](#)
- ・ [3次元GIS「東京デジタル3Dマップ」](#)
- ・ [DXFコンバータ「AmiXconv / AmiXconv3D」](#)

広域ベクター地形データを扱う地図ソフト製品

広域ベクター地形データと言えば、かつては「国土数値情報」が全てと言ってよく、民間の地図、地形データを含め、広域地形のスタンダードを成していました。現在では、このデータを包含した形の「基盤地図情報縮尺レベル 25000」が広域ベクター地形データの代表と言えます。25000分1国土図を基に作成され、行政界、海岸線、鉄道、河川、道路及び等高線、標高点から成り、自然地形の基礎となるものです。同様に25000分1地形図で、国土地理院が作成して「地図センター」が発売している「数値地図25000（行政界・海岸線）」、「数値地図25000（地名・公共施設）」も便利です。何れも「基盤地図情報縮尺レベル 25000」と同様に、2万5千分1地形図から行政界（市区町村レベル）・海岸線と、注記および公共施設を取り出したもので、全国整備されたものです。現在はどちらも世界測地系の緯度、経度でXML形式で格納されています。

「日本全図」- μMAP」は、「基盤地図情報縮尺レベル 25000」を都道府県毎に平面直角座標で整備し、かつ座標系が同じ県は連続表示でき、「数値地図25000（行政界・海岸線）」、「数値地図25000（地名・公共施設）」の地形データも含み、更に全国レベルの「50mメッシュ標高」を包含した地図ソフトです。

- ・ [日本全域図&日本分県図「日本全図」- μMAP」](#)

標高データを扱う地図ソフト製品

標高データは標高値の測定の困難さと、データの正統性という性質と相俟って、国土地理院で作成されたものしか存在していませんでしたが、近年、日本周辺のみならず全地球的規模での広域の標高データ（ASTER 全球3次元地形データ：ASTER Global Digital Elevation Model(GDEM)）が公表され、比較的手軽に使用できるようになりました。ただ、標高データを使う際に注意すべきは、基本的にメッシュ標高であるため対象範囲が広がると膨大になる、という事と、標高値の絶対精度つまり、その標高値がどのように取得されたかが重要になります。広域を対象とする時は、もとより「粗の形状」が問題ですから、標高値の絶対精度はあまり必要ではありません。

ません。2500分1地形図(所謂白地図)を対象として標高を問題にする時は、数cmといった高い精度が必要になるでしょう。ここでは、国土地理院で作成された高精度の5mメッシュ標高、日本全国を対象とする10mメッシュ標高、50mメッシュ標高と、上記のASTER全球3次元地形データを対象とします。

国土地理院のメッシュ標高は5mメッシュ標高(緯経度系)と10mメッシュ標高(緯経度系)は「基盤地図情報」としてダウンロードできます。また、5mメッシュ標高(平面直角座標系)と50mメッシュ標高(緯経度系)は「地図センター」からCDで発売されています。

5mメッシュ標高(平面直角座標系)変換ソフト製品

5mメッシュ標高(平面直角座標系)は数値地図5mメッシュ(標高)とも呼称され、現状で考えられる最良の標高データです。標高値の絶対精度は数cmから20cm程度とされています。数値地図5mメッシュ(標高)は航空レーザ測量により、地表面の高さを直接計測したデータから、建物などの人工構造物や樹木などの植生を除去し、5m間隔に計算で求めた地面の標高で、極めて高精度であることが特徴です。取得された標高は2500分1国土基本図単位に格納されているため、図葉名称から平面直角座標を得ることができます。これにより、別々の図葉に収められた標高に平面直角座標を付与して3次元データとして展開できます。データ形式は、国土地理院が刊行している数値地図5mメッシュ(標高)のCDに格納されている5mメッシュの標高データです。標高データは横2km、縦1.5kmの所謂2500分1国土基本図の図葉にのっとり、LEMという拡張子を持ったグリッドデータで格納されています。5mメッシュ(標高)という名の通り、平面直角座標の5m四方をメッシュとして標高が取られ、横2km、縦1.5kmの2500分1国土基本図に対し、東西400、南北300のグリッドで構成されています。

- ・ [5mメッシュ標高の3D変換「R5McnvDXF」](#)

5mメッシュ標高(緯経度系)変換ソフト製品

5mメッシュ標高(緯経度系)は、最新のレーザ測距技術を用いて作成された平面直角座標系5mメッシュ標高(数値地図5mメッシュ(標高)とも呼称されます)を基に作成されたものです。メッシュ標高は2次メッシュを区画として3次メッシュ単位に細分された、おおよそ5mの標高メッシュです。この5m標高メッシュは、数値地図5mメッシュ(標高)とは異なり、5m四方の中心点標高ではなく、3次メッシュ(経度方向に1/80度、緯度方向に1/120度)を経度方向に225分割、緯度方向に150分割したものです。従って格子間隔は経度方向、緯度方向共に1/18,000度となっています。これから分かるように、正確な「5mメッシュ」ではなく、緯度、経度により格子の長さは異なってきます。因みに、東京周辺では経度方向が5.0m、緯度方向が6.2mです。

- ・ [5mメッシュ標高の3D変換「M5cnvDXF」](#)

10mメッシュ標高(緯経度系)変換ソフト製品

10mメッシュ標高(緯経度系)は日本全国を覆う2次メッシュを区画とした10m標高メッシュです。10m標高メッシュは国土地理院の「基盤地図情報サイト」から「基盤地図情報ダウンロードサービス」により、2次メッシュ区画のXMLファイルで入手できます。このXMLファイルはzip形式で圧縮されています。10m標高メッシュは、10m四方の中心点標高ではなく、2次メッシュ(経度方向に1/8度、緯度方向に1/12度)を経度方向に1125分割、緯度方向に750分割した

ものです。従って格子間隔は経度方向、緯度方向共に1/9,000度となっています。これから分かるように、正確な「10mメッシュ」ではなく、緯度、経度により格子の長さは異なってきます。因みに、東京周辺では経度方向が10.0m、緯度方向が12.3mです。

- ・ [10mメッシュ標高の3D変換「M10cnvDXF」](#)

50mメッシュ標高（緯経度系）変換ソフト製品

50mメッシュ標高（緯経度系）は、かつてはメッシュを区画としたグリッドデータとしてCDに収められていて、全国規模といった広範囲の標高データを使用する上からは便利でした。現在は、世界測地系の緯度、経度で表されたXMLファイルとして格納されています。現在は、国土地理院の「基盤地図情報サイト」から「基盤地図情報ダウンロードサービス」により、日本全国を覆う2次メッシュを区画とした10m標高メッシュが入手できますので、この標高データを直接使う必要は少なくなってきましたが、広域の地形モデルにはまだまだ欠かせないものです。この50m標高メッシュも正確な「50mメッシュ」ではなく、メッシュ区画を緯度、経度の方向に等分したものですから、緯度、経度により格子の長さは異なってきます。

- ・ [海岸線と50mメッシュ標高の3D変換「DXFcnv50M」](#)

Aster GDEM変換ソフト製品

ASTER（高性能マルチバンド光学センサ）全球標高データ（GDEM）は、経済産業省および米国航空宇宙局（NASA）により共同開発されたものです。ASTER GDEMの対象表面範囲は北緯83度から南緯83度の範囲で、GeoTIFFフォーマットで提供され、等緯度経度座標および1arc-second（約30m）のグリッドの標高値となっています。ASTER GDEMのデータユニットは1度×1度の範囲のデータでタイルと呼称されます。GDEMタイルパッケージには2つのzip圧縮ファイル、つまりDEMファイルとQA（品質評価）ファイルが収められていて、どちらも1度×1度の範囲に相当する3601×3601画素を持っています。標高の精度は数mから20m程度といわれているようです。

- ・ [Aster GDEMの3D変換「AsterDXF」](#)

過去のシステム開発実績

地図データベース整備 (国土地理院、地質調査所、通信会社等)

- ・国土数値情報データベース
- ・国土地熱資源データベース SIGMA
- ・線路設備図面データベース構築システム NATLAS

マッピング・地図システム (国土地理院、地質調査所、防衛庁、東京国道事務所等)

- ・国土数値情報図化システム
- ・国土地熱資源データベースの汎用図形処理システム
- ・線路設備図面データベース新地図マッピングシステム
- ・電波環境技術調査地図情報プログラム
- ・東京国道管内道路電子地図
- ・荒川下流埋設物マッピングシステム

地理情報システム (大阪市、名古屋市、神奈川県、静岡県、群馬県等)

- ・標準地理情報データベース
- ・標準地理情報システム
- ・防災情報システム
- ・都市計画基礎調査解析システム
- ・都市計画情報システム
- ・都市計画決定管理台帳データベースシステム
- ・下水道台帳データベース作成システム
- ・地域情報管理システム
- ・建築確認等管理・集計システム
- ・固定資産情報システム
- ・国土利用計画法に基づく土地取引管理システム
- ・公衆トイレデータ入力、出力図作成プログラム
- ・歴史的建造物データ入力、出力図作成プログラム

デジタル化システム (工業技術院機械研究所等)

- ・測量自動化トータルステーションの開発
- ・金属結晶解析システム
- ・デジタル化と連動した3次元断面形状複製プログラム
- ・細胞復原図作成プログラム
- ・モアレ縞解析プログラム
- ・デジタル化入力による材料割付けシステム
- ・F-2簡易型解析図化機の制御ソフトウェア

人工衛星解析 (宇宙開発事業団、電波研究所等)

- ・電離層観測衛星のための人工衛星運用計画システム
- ・人工衛星軌道予測プログラム
- ・電離層特性世界分布図作成プログラム
- ・技術試験衛星のための人工衛星熱概念設計
- ・能動的ニューテーション減衰機構運用システム
- ・触における技術試験衛星の評価解析
- ・人工衛星追跡管制システム
- ・人工衛星姿勢制御システム

飛翔体解析 (防衛庁等)

- ・誘導ミサイル制御システム
- ・F C S (Fire Control System) 設計システム
- ・スラスタ制御解析プログラム
- ・パトリオットデータ解析プログラム

熱流体・原子力解析 (日本原子力研究所、動力炉核燃料開発事業団、航空技術研究所等)

- ・3次元汎用熱解析プログラム
- ・伝熱管設計プログラム
- ・航空機用流体計算
- ・ウラン濃縮固化冷却回収シミュレーション
- ・J T - 6 0 能動粒子線散乱信号量変化シミュレーション
- ・原子炉建屋構造解析コード SUNSTR 開発
- ・F B R 解析用対話型2次元汎用図形処理システム
- ・加圧水型炉心再冠水モデルの画像処理

電子回路解析 (半導体メーカー)

- ・S P I C E を核とするM O S F E T 設計システム
- ・L S I 回路試験用ソフトウェア
- ・M O S デバイスシミュレータ
- ・微分方程式離散化用2次元格子自動発生プログラム
- ・異なるグリット系上の不純物濃度変換プログラム
- ・直交格子系における領域認識プログラム
- ・共役勾配法系列の行列解法プログラム
- ・単調性を保存する直交格子系間の変換プログラム
- ・デジタルテストパターン変換ソフトウェア
- ・フォトレジストパターン3次元形状シミュレータ
- ・M O S デバイスシミュレータのための統一プロットプログラム
- ・シミュレーションプログラムマネージャS P M
- ・タイミングシミュレータP S p l o t の開発

- ・ デジタル / アナログ波形解析シミュレータ V P S の開発

海洋・構造システム (造船会社、石油掘削会社)

- ・ 半潜水型海洋構造物の運動解析プログラム
- ・ 浮遊構造物の静的性能計算プログラム
- ・ 浮遊構造物の復原性解析プログラム
- ・ 海洋構造物の疲労強度解析プログラム
- ・ 有限要素法による汎用構造解析プログラム

石油掘削システム (石油公団、石油資源開発等)

- ・ 有限要素法によるマリンライザ静・動解析プログラム
- ・ 掘削リグにおける 3 次元係留解析プログラム
- ・ 掘削リグにおける係留ライザ総合解析プログラム
- ・ 掘削リグにおける係留ライザ挙動及び船体動揺の総合解析プログラム
- ・ 3 次元 B H A 挙動解析プログラム
- ・ 小規模海洋油田開発技術プログラム
- ・ 計画坑跡策定プログラムの開発
- ・ 坑井軌跡制御プログラムの開発
- ・ 新 N E P T U N E プログラムの開発
- ・ スリムホールウェルコントロール実験データの解析
- ・ B C P 初期プロトタイプシステムの開発
- ・ 不規則波中のマリンライザ挙動解析プログラム
- ・ B C P システムの開発
- ・ フリースタANDING なマリンライザ挙動解析プログラム
- ・ ライザ解析統合化システム

C A D / C A M (半導体メーカー等)

- ・ L S I 回路設計 C A D システム
- ・ インタラクティブグラフィックターミナルによる乾式冷却塔設計システム
- ・ ジブクレーン部材自動選定プログラム
- ・ I C A D データ作成システム

グラフィックス&シミュレーション (通信会社、計器会社等)

- ・ 首都高速道路渋滞予測シミュレーション
- ・ 複数関門局構成における回線設計シミュレーション
- ・ リアルタイム制御による飛行機の運動シミュレーション
- ・ 4 次元飛行経路管理システムフライトシミュレーション
- ・ 耐故障コンピュータのための複数 C P U 再構成シミュレーション
- ・ カラー स्कヤナシステム色情報解析ソフトウェア
- ・ M O V I E による 3 次元汎用図形処理システム

- ・送電線敷設メッシュプロット
- ・騒音解析の図形処理プログラム
- ・音響可視化システム
- ・バイオ画像解析および神経回路網再構築
- ・気象レーダ像のアニメーション
- ・LANDSATデータによる画像処理プログラム

AI & データベース (日本建設情報総合センター、笹川平和財団等)

- ・REDUCE、MACSYMA、SMPの評価解析
- ・数式処理を利用した変電所電圧制御による回生車シミュレーション
- ・数式処理を利用した多関節ロボットの先端位置シミュレーション
- ・汎用入力プログラム自動生成
- ・汎用自由書式データ読み込みプログラム
- ・ヤングリーダー奨学生データベースシステム
- ・シミュレータ管理データベースシステム
- ・新土木積算システム [積算体系出力システム、統合メンテナンスシステム]

ビジネスグラフィックス (半導体メーカー、石油会社等)

- ・芝浦ショップシステム
- ・顧客管理システム
- ・石油開発採算検討プログラム

マイクロ制御技術 (計器会社等)

- ・基準経路設定装置用ソフトウェア
- ・次期戦闘機用 Up Front Panel ソフトウェア
- ・航空機用飛行経路制御装置
- ・次世代航空機用4次元飛行経路制御装置
- ・次期戦闘機用EHSIソフトウェア
- ・P120L用FPDSソフトウェア

通信系システム (電気会社、計器会社等)

- ・国際間送受信電文処理プログラム
- ・POS端末運用コントローラ
- ・UNIXワークステーション用通信ソフトの開発

工学系解析 (電力会社、ゼネコン等)

- ・ANSYSによるピン接合タービンの応力解析
- ・NASTRANによる原子力建屋地盤の構造解析
- ・ADLPIPEによる原子炉建屋配管系構造解析
- ・SAPによる支え板部の応力解析

- ・ 質点バネ系の格子モデルによる原子力建屋の地盤・建屋連成震動解析

調査・研究 (石油公団等)

- ・ CALCOMPプロッタライブラリのアルゴリズム研究
- ・ ソフトウェア制御による耐故障コンピュータの研究
- ・ 自動プログラミングの現状と方法論についての調査
- ・ 論理プログラム合成LPSシステムの調査研究
- ・ リアルタイム掘削制御技術に関する委託調査
- ・ リモートコントロールベントサブを用いた傾斜コントロールの調査
- ・ 水平坑井の計画坑跡の策定および坑跡制御に関する調査
- ・ 水平坑井の計画坑跡策定および坑跡制御のプログラム構築に関する調査

ホームページ製作 (科学博物館)

- ・ 博物図譜情報検索サービス

マニュアル作成 (電気会社等)

- ・ (スウェーデン局) TDMA/MCオペレーションマニュアル作成
- ・ オンライン手書入力装置OKI SR220のマニュアル作成
- ・ Tc1/Tkによるオンラインマニュアルの作成

ミュース株式会社のご案内

会社の概要

社 名：ミュース株式会社
本 社：東京都渋谷区恵比寿2丁目14番19号
〒150-0013
電話 (03)3446-8456
FAX (03)3446-8073
創 立：昭和57年10月18日
資本金：2000万円
取引銀行：三菱東京UFJ銀行 赤坂見附支店

社名の由来

「ミュース」はマイクロ(μ)及びミュータント(mutant)を表し、「エス」はシステム(system)、ソフトウェア(software)、ソサイアティ(society)の意味を包含できるように名付けたもので、斯界の「小さな異能集団」でありたいと希っています。

役員

代表取締役 石田 滋
(昭和22年生、東京大学理系大学院修士卒)

沿革

- ・昭和57年10月18日創立 資本金500万円
- ・昭和59年10月9日 資本金を1200万円に増資
- ・昭和63年8月12日 本社を下記に移転登記
東京都港区赤坂2丁目19番8号 森ビル赤坂2丁目アネックス
- ・平成7年9月7日 資本金を2000万円に増資
- ・平成10年1月19日 本社を下記に移転登記
東京都渋谷区恵比寿2丁目14番19号

営業品目

G I S (地理情報システム)のコンサルティング及びシステムの受託開発
G I S製品の自社開発ならびに販売